2023年度

茨城キリスト教学園高等学校自己評価表

目指す学校像	本校は、キリスト教教育による豊かな人間性の涵養と教育基本法等の精神を踏まえ、教育目標達成に努力する学校である。 本校の教育目標は、「心豊かで、実力のある、自立した国際人の育成」である。 1） 自己の確立（人間の尊厳性） 自らを深く見つめ、謙遜に真理を探究し、神の前に真実に生きる人間を育てる。 2） 人間関係の育成（隣人愛の育成） 世界に目を向け、他者に向かって開かれた心を養い、隣人を愛する人間を育てる。 3） 個性の伸長（自己実現） 自分に与えられている能力を伸ばし、品性を養い、進んで人類の福祉と世界の平和に貢献する人間を育てる。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
本校の3本の柱を中心に生徒・保護者・教職員の共通理解の下で、種々の教育活動を実践し一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層、一人ひとりの生徒を大事にし、きめ細かな計画・立案・実施・点検が必要である。	1.キリスト教教育による豊かな人間教育	① 礼拝、宗教行事等の活動を通して豊かな人間性と情操の陶冶を図る。 ② 宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。 ③ キリスト教教育を中核とする宗教部・生徒指導部・教育相談部など関係分掌の連携による教育体制を築く。 ④ 聖書・礼拝を通して生きる意味や目的を学び、真実に生きる生徒を育成する。
	2.英語教育と国際教育の強化	① 国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めるとともに、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。 ② 英語・国際教育の充実と全校への拡大に努める。（諸留学制度、海外語学研修、海外研修旅行） ③ 世界の一員であることを認識し、自国および他国を愛し、人類の福祉と世界の平和を希求する生徒を育成する。 ④ 米国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。
	3.学力の向上と進路指導の充実	① 希望した進路の自己実現ができる生徒を育成する。そのために、希望進路の実現をあらゆる面から支援する体制を確立する。 ② 自己の長所・興味・関心・使命感に気付かせ、個性の伸長をはかる。自ら考え、自主的に調べて学ぶ生徒の育成について研究・推進する。 ③ 読書を奨励し、小論文に早期に取り組ませる。 ④ 21世紀型研究開発的教育の前進に努める。教職員の専門性向上をはかり、思索的創造的人材育成を可能にするノウハウを高める。

判定基準　5：十分適正である　4：適正である　3：概ね適正である　2：やや適正に欠ける　1：適正でない

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
聖書	聖書の中の豊かな人間理解に触れながら、どんな人も神に愛され受け入れられている大切なかけがえのない存在なのだということに気づいていくことによって、他者との共存へと導かれていくことを目指す。 聖書の学びを通して、現代社会における課題をキリスト教的視点から学ぶことを目指す。これらの学びを通して、グローバルな視点で考える力や、自分自身の生き方と社会のあり方を考える力を培う。	1.聖書を土台に、キリスト教の基礎知識を学ぶ。	5	4	・聖書が今生きる生徒たちに何を伝えようとしているのか、わかりやすく授業を展開できるように今後も検討していく。 ・教材研究を行い、より充実した内容の授業展開が出来るようにしていく。 ・ICTや視聴覚教材を目的に応じてより効果的な使い方を検討していく。 ・キリスト教行事と連携した授業を行うことを今後も検討していく。
		2旧約聖書の基礎知識を手がかりに、人間について考える宗教的な視点を獲得する	4		
		3.福音書に示されているイエスの生き方や教えの今日的な意義について、具体例を用いて理解を深める。	4		
		4.福音書に示されているイエスの生き様や教えを現代の社会の中で読み解きながら、人間をめぐる根本的な問題について考える力を養う。	4		
		5.視聴覚教材やICTを有効に活用した授業づくりを図る。	5		
		6.グループワーク、調べ学習や発表を行い、グローバルな視点で考える力や自分の考えを言語化する力を養う。	4		
国語	国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成し、伝え合う力を高めると共に、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語を尊重する態度を育てる。	1.小テストなどを通して、語句の意味・用法を理解し、語彙力を豊かにさせる。	4	4	・来年度からの新課程に伴う「大学入試共通テスト」の改変(実用文の問題10点分追加・10分延長)への対策。 ・総合型・学校推薦型選抜入試に対応できる論理的思考力・表現力の養成。
		2.図書館と連携して読書に親しませ、進んで表現する態度を育てる。	4		
		3.古典文法・古文単語・漢文句法を定着させ、古典を読解し鑑賞する能力を養う。	4		
		4.指導内容・方法・進度などについて、担当者間の打ち合わせを密にする。	4		
		5古典芸能に親しみ、さまざまな表現活動を通して日本文化の継承者としての意識やプライドを育てる。	5		
		6.ICT(電子黒板・タブレット)やAL型授業を効果的に取り入れ、内容理解を深めさせる。	5		
地歴公民	国際化の進展する現代社会において、より良き社会の形成者に必要な資質・能力を養う。また、進路実現のために必要な学力やキャリア意識を育てる。	1.地理や歴史に関わる事象、現代の諸課題について、概念(一般的な規則性や傾向等)を活用して考察する力を養い、事実暗記の偏重に陥らないようにする。	4	4	新学習指導要領に移行後、大学入試科目の変更や、大学入学共通テストの出題内容の質的変化など、教育改革の余波を最も大きく受ける教科が「地歴公民」である。そこで、地歴公民科の各教員が多様な出題形式に対応できる知識研鑽と、それに基づく教科指導法を編み出すことで、本校生徒の進路実現を力強く後押しできる「社会科のシオン」たる優れた教科力の基盤整備を一層図っていきたい。
		2.調査や諸資料、新聞・ニュース等を活用し、様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けさせる。	4		
		3.協働学習の手法を適宜導入しながら、社会の課題解決に向けた考察や構想をさせ、それを説明したり、議論する力を育てる。	4		
		4.Society 5.0 の時代に対応できる人材育成のため、ICT活用を進めた授業づくりを図る。	4		
		5.宿題の提示・回収や確認テスト、校外模試の対策を実施し、復習を中心とした家庭学習の態度を定着させる。	4		
		6.中・高の接続を意識した連携を深め、教員間の情報共有や学習内容の体系化、多様な社会科教育の機会の提供等を進める。	4		
数学	数学における基本的な概念や定理・公式の理解を深め、問題を適切に処理する能力を高める。	1.予習の励行を徹底し、1年次の早い段階から家庭学習の習慣をつけさせる。	4	4	・シラバスに沿った進度での授業展開 ・Gクラスの基礎学力の定着 ・進研模試において、基本問題を確実に正解できるような基礎学力の徹底 ・定義や定理等の理解度を高める ・新学習指導要領に対応した入試の動向をつかむ
		2.教師間の連携を密にし、進度・内容について確認しあう。	4		
		3.基礎力の定着確認のため、小テストや節末・章末テストを実施し定着度を確認し、不十分な点は補充演習などを行う。	4		
		4.問題演習が校外模試につながるよう、計画性を高めて実施する。	4		
理科	(1)観察・実験などを通して自然を探求する能力と態度を育成する。 (2)自然の事物・現象についての基本的な科学概念の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	1.目標を明確にし、解りやすい授業を心がける。	5	4	・基礎学力の定着(量的関係) ・実験や観察の時間を作る。
		2.日常の科学的現象を授業の中にできるだけ取り入れ、理科に関心を持たせる。	4		
		3.観察や実験を通して、自然現象をみる目を養い、問題解決のための科学的方法や手順を会得させる。	3		
		4.希望進路を実現するために、小テストや演習をできるだけ多く取り入れ基礎力を定着させる。	4		
		5.教科会の中に科目ごとの打ち合わせ会を設け、相互研修・連絡の場とする。	4		
保健体育	心と体の健康を目指し、自主的に健康管理ができる能力を身につける。また各種目ごとに適切な技術を習得する。	1.身体的、精神的健康維持をするために必要なことを認識し活動する。	5	4	
		2.個人や集団の中で各種スポーツの技術向上を図る。	5		
		3.さまざまな活動を通して、基礎体力の向上を図り、体力テストで県平均を上回れるよう生徒が積極的に参加できる授業にする。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
芸術	(美術)豊かな感受性を養い、絵画の技法を習得して基礎的な能力を身につける。 (音楽)讃美歌を中心とした諸外国の音楽を学ぶことによって、音楽を愛する心情を育むと共に、豊かな感性を育てる。	1.対象物のモチーフに対して、深く観察を繰り返して、基本となるデッサン力を身につけて学習する。	4	4	音楽美術とも、作品や楽曲の発表を様々な形で行うことで、授業への意欲向上と表現力を伸ばすことができた。今後これを継続して育成していく。
		2.創る喜び、見る喜びを通して対象物に迫り、生徒の絵画の認識を深める。	4		
		3.個別指導を通して、生徒に適切なアドバイスをし、新たな発見をして感性を磨く。	5		
		4.歌唱指導　コロナ禍で減ってしまった歌唱の時間を取り戻し、引き続き安全対策に配慮しながら歌唱活動を充実させる。	5		
		5.器楽指導　トーンチャイムでは協働の精神を持ち、自分の役割を果たし演奏を完成させる。ヴァイオリンでは楽器の仕組みを知り、運指を覚え、一人ずつクラスで発表できるように指導する。	4		
英語	英語4技能習得への意識を高めながら、コミュニケーション能力の基礎の育成と、進路実現のための英語力を育成する。	1.1年次は、英単語、英文法の定着を図ると共に、英語で表現された内容を理解できることを目指す。	4	4	新課程となり2年目を迎え、観点別評価の導入に伴い授業の内容や方法を再検討し、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢の養成に繋げたい。
		2.2年次は、英語プレゼンテーション等の指導を通して、自分の意見を英語で表現できることを目指す。	4		
		3.3年次は、演習等を積極的に行い、様々な進路実現のための英語力(CEFR:A2～B1)を身につけることを目指す。	4		
家庭	衣食住、消費生活、家族・家庭、福祉などに関する基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を解決し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	1.実験・実習を通して、衣食住に関する基礎的な技術を習得させる。	3	4	日常生活に結びつく題材の設定を工夫する。実習については、取り組み可能な内容を検討し、実施できるようにする。
		2.学習ノート、プリント、基礎縫いキットを提出させる。	4		
		3.個人の家庭生活における問題点を知り、自立のための課題を考えさせる。	4		
		4.日常生活から、環境や社会全体の問題への理解を深める。	4		
情報	情報デザイン，情報分析の方法，プログラム，ネットワーク，データベースなどについて理解し，情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力や情報モラルを身に付けさせる。	1.基本的なアプリケーションを用いた実習や，Webページ製作実習等を通じて，情報デザイン・分析等に必要な技能を身に付けさせる。	4	4	情報Ⅰにカリキュラムが変更されてから，扱うべき内容が多くなっているので，実習（特にプログラミング）の時間をいかに確保するかが課題である。それ以外の分野をより効率的に指導し，プログラミング分野にかける時間を増やすことを意識したい。
		2.プログラミングやデータ分析の実習等を通じて，情報と情報技術を適切・効果的に活用する力と知識を身につけさせる。	4		
		3.情報モラルを養い，これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を身に付けさせる。	4		
宗教	年間テーマの「隣人を愛する」を指針とした活動を通して、互いに認め合い、他者のために心を働かせ、行動し、他者と共に喜び生きていくことができることを目指す。	1.礼拝の充実		5	・今年度も生徒による奨励が出来たことは良かったが、聖書箇所が限られていたので、次年度は選択しを広げていくことを検討する。 ・礼拝が、生徒、教職員にとって有意義な時間となるように、今後も礼拝のあり方について検討していく。 ・教職員対象のキリスト教教育研修の機会をつくり、外部から講師を招いて学びの時を持つ。 ・教職員と全校生徒が一同に集まり、礼拝を持つ機会を検討していく。 ・生徒自ら礼拝をやらせて欲しいという声も上がった。今後も生徒たちが積極的に礼拝に参加し、主体的に取り組んでいくことにつながるようにしていきたい。
		・1日の始まりに、生徒たちが静まって自分を見つめる時間を大切にする。	4		
		・中高教職員の他、学園チャプレン、近隣牧師、大学職員の方など、様々な方からみ言葉を聞く機会を持つ。	5		
		・音楽礼拝を企画する。	5		
		・讃美歌を通して、神を賛美するという大切なことを学ぶ。	4		
		・英語礼拝の時、話す内容の英文を事前に配信し、より理解しやすくする。	5		
		・昨年度に引き続き、生徒による奨励を行う。	5		
		2.キリスト教への理解を深めるための啓蒙活動		4	
		・キリスト教行事のポスターを作成する。	4		
		・クリスマスの意味を学ぶ機会をつくる。	4		
		・学年礼拝時に、讃美歌練習の時間を取り入れる。	5		
		・教会音楽に触れる機会を計画する。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
教務	(1)学校における教育活動全般を統括し、円滑な運営ができるようにする。 (2)教務関係の業務を効率化・省力化できるようにする。 (3)日々の教育活動が円滑に行われるように調整する。	1.学校行事が円滑に進められるように各学年、各分掌との調整を図る。	4	4	・試験監督不足の解消の検討。 ・試験問題回収の検討。 ・模試の日程。 ・評定確認作業。 ・時間割作成の検討。 ・観点別評価の検討。
		2.教務に関する内容(情報)の全職員への共通認識の徹底を図る。	4		
		3.情報システム部と連携して、出席管理、成績処理、帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化を図る。	4		
		4.年度計画の上に月々の計画を立て、日々の教育活動が円滑にスムーズに行なわれるようにする。	5		
		5.日々の教育活動(時間割等)の調整をスムーズに行い、授業時間を確保する。	5		
		6新学習指導要領に基づく観点別評価と5段階評価の整合性について検討を続ける。	4		
進路指導	(1)学力の向上と進路実現。 (2)ホームルームにおける進路教育の充実。 (3)新しい入試に対応できる情報や資料の充実と活用。 (4)生徒・保護者に対する進路意識の高揚。 (5)中学校に進路情報を提供し、中高一貫生の6年間を見通したキャリア教育の計画づくりに協力する。	1.進路の年間活動計画の内容と意義を生徒に周知させ、学習指導部と連携して学習習慣の確立・学力向上を図る。	4	4	本校は大学進学希望者が8割以上を占める。ゆえに、1年次からの学習習慣の定着を目指しているのはもちろん、大学情報・入試情報にも早い段階で触れてもらいたいと考えている。iPadが学習教材として恒常的に活用されている環境ということもあり、今後は今まで以上にwebを活用して大学に関わる諸情報の収集をさせていきたい(もちろん信用度の低い情報の排除などメディアリテラシーの習得を前提としているが)。また、新課程入試の初年度をむかえるにあたって、情報の収集・教員間の共有を注意深く行い、受験指導を遅滞なくすすめていきたい。そして、学習指導部や探究委員会との連携を深め、3年間の一気通貫した進路計画の構築・運用を目指したい。
		2.授業に加えて、校外実力試験・講習等を十分に活用し、入試に対応できる実力をつけさせる。	4		
		3.進路資料・あどばいすを作成・配付し、HR等での進路への意識づけに活用する。また、学びみらいPASS等の進路適性検査をキャリア教育につなげ、将来について考える機会を増やす。	4		
		4.ペネッセのHigh School Onlineを活用し、Fine System・Compass等で個人・学級・学年の成績・学習状況等を把握する。	5		
		5.論理的思考力・表現力等を養成し、3年間を見通した小論指導を模索する。また、小論文ハンドブックを図書部と連携して作成する。	4		
		6.教員に対して、ペネッセ・河合塾その他の業者・学校による進路情報を提供し、的確に生徒の進路相談にこたえられるよう協力する。	5		
		7.職業ガイダンス・模擬授業ガイダンス・進路別ガイダンス(先輩の話から進路について学ぼう)・医学セミナー等を開催する。	4		
		8.3年を中心に、共通テストを始めとする各種進路・入試制度、志望理由書・小論文等について校内説明会を実施する。	5		
		9.生徒にClassi・冊子等で情報を提供し、大学等のオープンキャンパス・説明会(現地・オンライン)への参加、HPの閲覧を勧める。	4		
		10.依頼に応じて本校中学生・保護者への進路説明会等に参加し、6年間を見通した進路設計のため適切な情報提供に努める。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
国際教育	(1)コロナ禍克服後という前提で、各留学プログラムに参加するよう生徒たちに働きかけ、参加者に対しては適切で有意義な事前指導と事後指導の徹底に努める。また、コロナ禍で始めたオンラインによる国際交流や、国内にいながらも国際理解を深められるようなプログラムについても、継続、あるいは新規開拓を進めていきたい。更に、「探究」活動との接点を模索し、上記のプログラム参加の付加価値を高める。 (2)国際交流委員会はもちろんのこと、全校生徒が異なる文化と触れ合い刺激を得る機会を広げるため、長期短期を問わず、積極的に留学生を受け入れたり、国際理解講演会などの諸行事をその実施意義や方法を熟慮検討の上、計画・実施する。 (3)在学中の長期留学への関心を高め、また実際に行く生徒へのサポートを行う。また、卒業後に海外大学への進学を目指している生徒に十分な情報を提供し、出願書類作成などを援助する。 (4)本校における国際交流の新しい形や新しいプログラムに関する検討については恒常的に努め、視察なども行ったうえで、可能なものから実施していく。	1. 国際交流に関するホームページの内容を更新するとともに充実させ、留学(長期・短期)の積極的な派遣、オンラインの国際交流プログラムへの参加につなげたり、外部に対する本校の国際教育活動の理解につなげる。	3	4	航空運賃や物価の高騰などを理由に、派遣型プログラムは実施の困難にさらされている。2024年度のG.R.E.A.T. Program実施不可の一因でもある。今年度は、プログラムの理解を深めてもらうための宣伝の強化、そして、近年の課題である、HPといったウェブ上の媒体を駆使したプログラムの紹介・宣伝は本格的に改善しなければならない喫緊の課題である。探究を意識した国際理解教育の在り方という点からも、講演会の形式を(ワークショップ型)に変更するなど、新しい取り組みも行っていきたい。受入プログラムについては、負担のバランスなどの細かな課題がまだ残っているので、事前準備などを通じてより良く改善していきたい。一方で、おもてなしの精神をしっかり形にしていくことも重要であり、モアヘッドハウスの物品の改善や、引率教員の対応などについては、レベルを挙げていきたい。長期留学生については、比較的安定した対応ができているが、一方で、大学の日本語支援の先生方との関係はより深まっており、日本語の不自由を感じる本校生の指導などにも、協力いただけるようになっており、この分野はさらに強化していく必要がある。以上のことにとどまらず、諸々の課題が山積している一方、日本全体的には、グローバル化に傾斜している学校も増て続けており、茨城県内でさえ、もはや本校は十分なユニークさを持っているとは言い難くなっている現状も直視しなければならず、スピード感をもって先手を打っていくという意識が求められている。今年度、国際教育部のグッズをお土産用として作成をはじめた。次年度以降も発展進化させていきたい。こうした努力もアピールの一環として重要だと考えている。
		2. 受入れプログラムについては、国際交流委員会や英語部など、広く多くの生徒たちが関わるだけでなく、交流の機会を増やすことに加え、先方との綿密なコミュニケーションに基づいた新たな企画にも挑戦していきたい。	5		
		3. 長期留学や海外大学への進学に関する情報周知に努める。	4		
		4. ホームスティの引受け家庭やクラス、クラス担任との事前打ち合わせ・準備および継続的なサポートを徹底し充実させる。	5		
		5. 国際交流委員を積極的に参加させた国際理解講演会の実施を通じて本校生に広く国際理解を深める機会を設ける。	4		
		6. キリスト大学の留学生やインターン生と積極的に交流し、またそこに本校の中学生も交えることで(中)高大連携の活性化を図る。	4		
		7. 既存の国際交流の形以外の形式(新たなフィールドの開拓)についても、恒常的に議論を重ね、新しいプログラムの可能性について検討から実施に結び付ける。	4		
		8. 派遣プログラムについては、共通の日本文化理解のためのテキストなどを使用しながらの事前指導、及びプレゼンテーションなどによる事後学習を充実させ、プログラムにかかわることで得られる学びの内容を、視野を広げることなどに留まらず、「探究」活動をはじめとする学びの深化につなげていきたい。	4		
学習指導	特進クラス・SGクラス、特進SAクラス、特進Aクラスそれぞれの進路実現のための働き掛けをし、日々の学習で学力を蓄積させ進路の実現に向けて歩ませる。 → 学校全体の進学実績向上	1.生徒のデータを追跡・点検・蓄積していく。	5	4	授業研究など同教科、他教科との連携して行う必要性がある。学力の2極化を防ぐための方策を考える必要がある。また、他コースや他学年の理解や協力を得られる手だてを考える。さらに、生徒アンケートを活用し学習他授業の進捗や内容を共有することで学期ごとに振り返りや授業評価を行うことも必要である。
		2.進路達成のために自ら進んで学習室利用ができるように勧める。	5		
		3.「Classiの学習の記録」の活用を通じて学習習慣の確立を図る。	5		
		4.シラバスの有効活用について，各教科など関係部署との連携し，その活用法を研究し実践していく。	4		
		5.図書館部との連携により，受験に直結する前段階における学習への動機付けとそれを持続させる指導法を探る。	4		
		6.各教科の到達状況や試験結果についての検討・点検をする。	4		
生徒指導	(1)一人ひとりの自主性自律性を育てて、高校生活の充実と人格の育成に努める。 (2)本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため側面から援助する。	1.挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。	4	4	
		2.学年・学級担任などと連携することにより、生徒の問題行動に対し事前・事後に渡って効果的に対処する。	5		
		3.生徒心得に基づいた高校生らしい端正な容姿を守らせる。	4		
		4.携帯電話・スマートフォンのフィルタリングサービス利用を徹底し、インターネットを使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。	3		
		5.盗難防止に努める。	5		
		6.いじめに対する対応策を確立し、防止および解決に努める。	5		
		7.中高一貫の生徒指導体制を整える。	4		
		8.学校をとりまく地域社会や多くの人々と協力して活動する。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
特活指導	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、自己を生かす努力を養う。	1.生徒会主催の諸行事の充実。	5	4	生徒会活動を活発にするために委員会活動の充実を図る。また、積極的にホームルーム活動への支援、協力を行う。
		2.本校にふさわしい生徒会・委員会・クラブ活動の検討と充実。	4		
		3.ホームルーム活動への支援、協力	4		
		4.予算の適正な運用を行う（部費等）	4		
教育相談	(1)生徒の成長を支援出来るように、教育相談に関する知識・技術の習得に努める。 (2)担任のクラス経営を側面から支援し、他分掌と協力し、生徒の問題を早期に解決する方法を模索する。 (3)悩みや問題を持つ生徒が学校生活に適応出来るよう援助する。	1.教育相談係としての力量をつけるために自己研修に各自力を入れる。	4	4	校外での研修内容を部員間で共有し、教育相談的配慮を必要とする生徒の把握と支援について研究する。
		2.生徒が安心して高校生活を送れるよう、諸企画（ワイド相談など）を実施し、明るく楽しい学校の雰囲気作りに努める。	5		
		3.悩みを持つ生徒が早期に相談できるよう、生徒への広報の充実を図り、諸企画（ワイド相談）を実施する。また、保健室等を利用した個別相談体制の充実を図る。必要に応じて対象生徒を教育相談委員会に申し送る。	4		
保健美化	(1)心身共に健康な生徒を育成する。 (2)校舎内外の環境美化及び整備の推進を図る。	1.手洗い等の衛生習慣を身に付け、自分の健康を管理できる生徒の育成を図る。	4	4	新型コロナウイルス感染症対策の徹底 手指の消毒や教室内の消毒の徹底 消毒液やハンドソープ補充の徹底
		2.授業時間と休み時間とのけじめをつけた保健室利用を徹底する。	4		
		3.生徒自ら美化に努め、毎日の清掃活動を通して環境整備を行う。	4		
図書館	(1)生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 (2)利用しやすい学習・情報センター (3)各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	1.蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。	5		・図書委員会活動の一部再開 ・読書講演会等の中高大連携推進 ・電子図書館の復活検討 ・全国学校図書館研究大会等の発表
		2.諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。	5		
		3.図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。	5		
		4.ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。	4		
		5.図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。	4		
渉外	(1)PTA会員の意識の向上を図る。 (2)PTA活動の具体的実践に取り組む。 (3)役員・理事との連絡を密にとり、円滑な運営を心がける。 (4)学校経営・学級経営を円滑にするために、教職員のPTA活動に対する理解を深める。 (5)保護者の個人情報の管理の強化。	1.本部PTAと支部PTA（日立・いわき支部、水戸支部）学年PTA（専門委員会）の役割分担を明確にし、それぞれの活動を充実させる。	4	5	昨年度まではコロナ感染予防の観点で実施できなかった活動もあったが、今年度からはほとんどの行事を再開することができた。しかしここ数年間やっていなかったので、十分な引継ぎができておらず、手探り状態の中での実施だった。次年度は今年度の経験を生かして、よりスムーズに実施できるようにしていきたい。また、生徒の健全育成と学校生活が充実したものとなるように、保護者と教職員が協力し、更に連携を深めていきたい。
		2.年1回の支部PTA研修会実施を検討する。可能であれば学園祭で喫茶室の出店を行う。（日立・いわき支部、水戸支部）	5		
		3.PTA会報「シオンの丘」を編集・発行（年間2回）し、本校の教育活動やPTA活動を魅力的に広報する。また、広報活動を通じて、PTA活動の充実を図る。（広報委員会）　＊教職員紹介号は教員担当とする。	5		
		4.大学見学会を年間2回実施する。（県外大学と茨城キリスト教大学を見学）（大学見学委員会）	5		
		5.講演会や音楽会などの全体研修会の企画・立案を行う。6月の開催に向けてチラシ作製や広報活動に積極的に取り組み、多数の来場者を迎える研修会を目指す。（全体研修委員会）	5		
		6.生徒の健全育成のため、各地域のお祭りの巡回、列車添乗指導、さわやかマナーアップキャンペーンを実施し、地域の生活環境の浄化に努力する。（生徒指導委員会）	4		
情報システム	(1)HPの充実。 (2)授業でのIT活用の推進。	1.HPでの学校行事等の更新の迅速化。	4	5	ICTを活用した授業をさらに充実させていきたい。
		2.HP上で提供する情報の拡充。	5		
		3.ICTを活用した授業の充実。	5		
		4.情報教室の生徒用PCの適切な管理。	5		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
入試広報	本校の教育内容を受験生とその保護者、中学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	1.PR効果のある学校案内パンフレット・ポスターを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるよう努力する。	5	4	環境の良さや教育の特色、通学の利便性など、本校の魅力を幅広い地域の中学生・保護者に確実に伝える。次年度は充実した本校の進路指導を紹介することに力を入れながら、これまで同様に中学生・保護者に寄り添い、中学校や塾の先生方に対しても適切な時期に情報提供をおこなう。
		2.校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。	4		
		3.学校見学会・入試問題説明会や学園祭での進学相談コーナーの内容を充実させ、多くの受験生とその保護者に参加してもらえるようにする。	4		
		4.SNSで本校の魅力を発信する。	4		
		5.生徒募集に関わることについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。	4		
第1学年	『自立と自律』	1. .学習目標		4	・学習に対するモチベーションの低い生徒への指導。 ・教材の準備に、整理整頓等、学習環境を整えるところから授業を始めなければならない場合があること。 ・学校活動や通常授業、探究などと全てが繋がるような活動にするための教員側の意識や体制の構築。 ・生徒への新課程入試に関する情報の提供。
		①学ぶことに興味関心を持つ。	4		
		②キャリア形成の方向性を意識しながら学習に取り組む。	4		
		③予習・復習を心掛け、学習習慣を身につける。	4		
		2. 生活目標			
		①基本的生活習慣を確立する。	4		
		③ルールとマナーを守る。	4		
		③時間と締め切りを守る。	4		
第2学年	急激な変化の中で対応できる力を身に付ける。	1. .学習目標		4	・やらない生徒やできない生徒に目が行きがちであるが、やっている生徒やできている生徒にも目を向ける必要がある。 ・進路面については「必要なこと」と「生徒が必要だと思っていること」の差を認識させるという点で不十分であった。
		①好きなことを学ぶ。(授業や部活動)	4		
		②必要なことを学ぶ。(授業や部活動)	3		
		③学びを継続する。(授業や部活動)	4		
		2. 生活目標			
		①想像力をもって行動する。(学級活動や行事)	5		
		③ルールとマナーを守る。(生徒心得)	4		
		③時間と締め切りを守る。(提出物)	5		
		3. 進路目標			
		①自らの進路について幅広く検討する。	4		
		②進路実現に向け、努力する。	3		
第3学年	『自己と向き合う　今と向き合う』	1. 生活目標　18歳成人を意識した 『基本的生活習慣・社会規範の確立』		4	
		①ルールを守ることの意味を理解、認識する。	4		
		②自身の言動に対する責任を認識する。	4		
		③「今、すべきこと」にきちんと取り組む。	4		
		④学習のみならず、常に目的・到達目標を明確にして物事に取り組む。	4		
		2. 学習目標			
		①予習・復習を徹底し、授業を大切にする。	4		
		②学習時間の確保と学力の定着(計画的・自主的な学習習慣を身につける)。	4		
		③読書に親しむ。	4		
		3. 進路目標			
		①自分の将来について、よりよい選択をする。	4		
		②進路の実現を目指し、自ら学習に取り組む。	4		
		③社会に関心をもつ。(職業観の育成)	4		